

地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)に係る 事業評価について 概要

1. 趣 旨

- 江差マースの運行にあたり、国土交通省「地域公共交通確保維持事業費補助金（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）」を充当することとしている。
- 本補助金の活用にあたっては、補助対象事業がより効果的、効率的に推進されることを目的に、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱第3条第5項及び地域公共交通確保維持改善事業実施要領【8. 事業評価について】に基づき、当該事業を活用した協議会における事業評価の実施、地方運輸局への報告が必要となる。
- 事業評価内容について、別添資料2，3において協議を行う。

2. 補助対象

系統名	運行期間	補助事業年度
江差マース	令和6年10月1日 ～ 令和7年9月30日	令和7年度補助事業年度

※本補助金に係る補助事業年度が前年10月～9月となっているため、令和6年10月～令和7年3月は週3日運行、令和7年4月～9月については週5日運行での事業評価となり、当該1年分の運行に係る補助金が令和8年3月に交付予定となる。

3. 事業評価申請書類

資料2 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料3 江差町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要
【概要】

- ・江差町地域公共交通計画のとおり、事業は適切に実施。
- ・補助事業年度途中で運行日や乗降地点を拡大するなど、利用者ニーズを反映
- ・1日あたり乗車人数については、目標値を上回った(目標値:10.0人/日 実績:10.7人)ものの、収支率については目標値を下回る(目標値:5.4% 実績:4.36%)結果となった。
- ・引き続き、周知活動や運行方針の見直しといった、利用拡大に向けた活動を実施していく。

4. 今後のスケジュール

令和7年11月 補助金交付申請

事業評価実施(本協議会)

令和7年12月 事業評価提出(提出先:函館運輸支局 輸送・監査担当)

令和8年3月 補助金交付

※運行方針等が変更となった場合、本協議会にて協議のうえ、随時計画変更等を行う。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	江差町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	江差マース
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>江差町は、北海道南西部に位置し、面積は109.53km²、人口は令和7年10月現在で6,437人となっている。江差町における公共交通体系は、函館バス株式会社による広域交通を軸に、有限会社桜山ハイヤーが町内を中心とした近隣交通の役割を担っており、奥尻島への移動手段として、オクシリア일랜드フェリー株式会社が1日1～2往復のフェリーを運航している。</p> <p>しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、公共交通機関の利用者数は減少しており、それに伴う収支状況の悪化や交通事業者における運転手不足等による、準基幹的広域バス路線を中心とした減便や廃止が続いている。このことから、町の一部地域で交通空白地域が発生するなど、高齢者や学生といった交通弱者を中心に、通院・通学や買い物など、町民の生活移動において、多大な影響を及ぼしている。</p> <p>このような状況を改善するため、町内全域を事前予約に応じたデマンド方式で運行し、町民における生活移動を支える役割を担う「江差マース」を運行することで、生活交通ネットワークの構築を進めている。</p>

事業実施の目的・必要性

江差町では、準基幹的広域バス路線を中心とした減便や廃止が続いており、町の一部地域で交通空白地域が発生するなど、町民の生活移動において、多大な影響を及ぼしている。このような状況を改善するため、町内全域を事前予約に応じたデマンド方式で運行し、町民における生活移動を支える役割を担う「江差マース」を運行することで、生活交通ネットワークの構築を進めている。

生活交通確保維持改善計画の目標

- ・江差マースの利用者数を1日あたり10人とする
- ・江差マースの収支率を5.4%とする

令和7年度事業概要

運行系統名 : 江差マース
運行区間 : 江差町内全域(利用者の自宅及び町内95箇所の乗降地点間)
運行回数 : 1,763回
運賃 : 200円～500円

地域公共交通の現況

- ・バス(3路線、1社)
- ・タクシー(1社)
- ・フェリー(1路線、1社)

協議会開催状況

- 3月10日(月) 令和6年度第4回協議会を開催
 - ・令和7年度江差マース運行方針について
 - ・江差町地域公共交通計画の変更について
- 6月5日(木) 令和7年度第1回協議会を開催
 - ・地域公共交通計画認定申請について
- 9月26日(金) 令和7年度第2回協議会を開催
 - ・江差マース運行実績について
- 〇月〇日() 令和7年度第3回協議会(書面)を開催
 - ・事業評価について

令和7年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

【プロセス】

令和3年～令和5年にかけて、計4度の実証実験を実施。令和6年8月から、終了期間を設けない本格運行を開始。

【創意工夫】

利便性向上のため、4度の実証実験で得られた乗降データや、住民を対象にしたアンケート調査の結果を踏まえ、乗降地点の追加、運行エリアの拡大、予約方法の多様化などを実施。

2) 運行系統

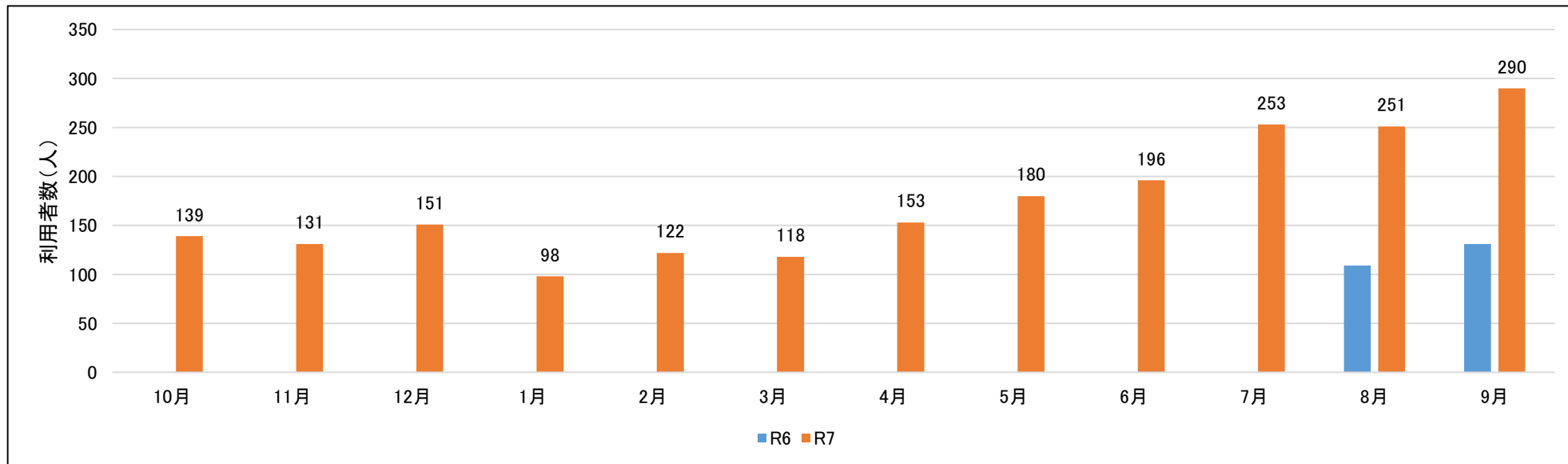
【江差マース】

● 乗降地点一覧（ご自宅以外）

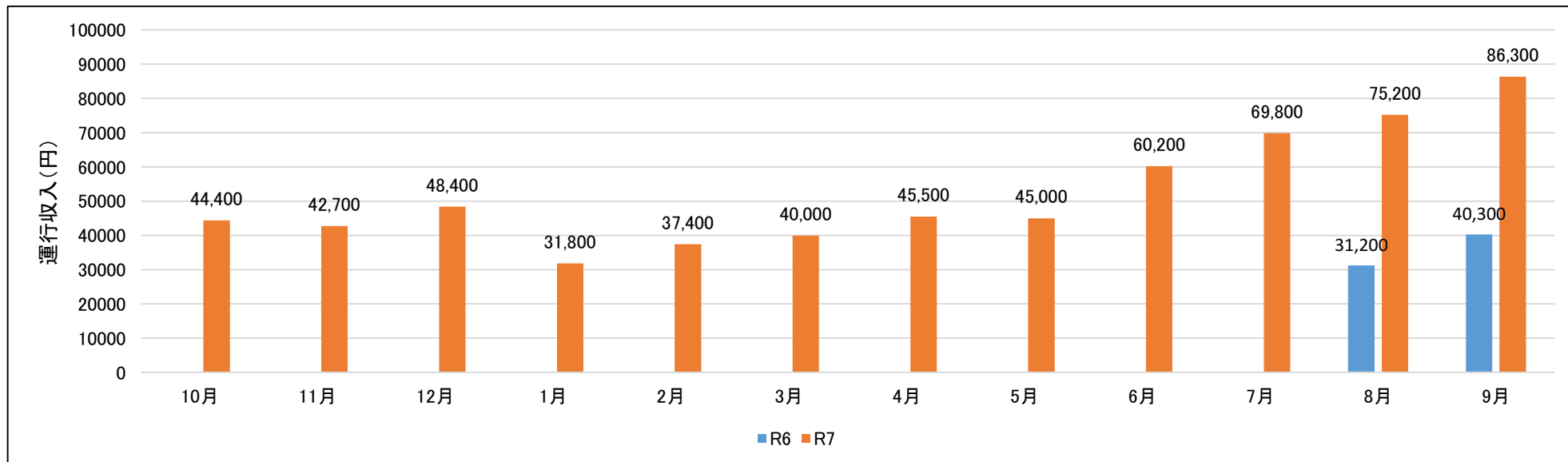
番号	乗降地点	番号	乗降地点
1	サツドラ江差柳崎店	46	小黒部簡易郵便局
2	サツドラ江差店	47	豊橋江差支店
3	太陽クリーニングふわっと柳崎店	48	豊橋江差郵便局
4	イエローグローブ江差店	49	江差尾山郵便局
5	愛宕町商店街わかさ商店前	50	江差愛宕郵便局
6	太陽クリーニングドライセンター工場	51	江差郵便局
7	伊勢谷時計店	52	江差茂尻郵便局
8	万年屋書店	53	江差南沢郵便局
9	太陽クリーニングふわっと純神店	54	北洋銀行江差支店
10	コロコロ往来店・山田屋菓子舗前	55	北海道みどり市南金津本店
11	レディズショップたじま	56	北海道江差高等学校
12	法華寺通り商店街 お休み処寄来所前	57	五能沢集会所
13	フラワーショップラサキ	58	純神町の家
14	あすなろ新地センター	59	朝日児童館
15	太陽クリーニングドライセンター工場	60	朝日児童体育館
16	レストラン津花楼	61	小黒部青の家
17	愛宕資料店	62	中嶋老人憩いの家
18	チャイニーズレストラン美華	63	榎前青の家
19	ホテルニューエス	64	水堀コミュニティセンター
20	フードセンターフンテン江差店	65	柳崎児童館
21	DCM江差柳崎店	66	伏木戸青の家
22	フランスマート江差店	67	田沢憩いの家
23	ダイソー江差店	68	ぬくもり温泉保養センター
24	ローソン江差柳崎店	69	泊生酒造
25	セイコマート江差尾山店	70	大講師の家
26	セイコマート江差新地店	71	老人福祉センター
27	セブンイレブン江差愛宕町店	72	あすなろ学園
28	セブンイレブン江差茂尻町店	73	江差町会会館
29	介護老人ホームひのき	74	江差町役場
30	えさし荘	75	江差遊分会館
31	北海道立江差病院	76	阿南丸青少年センター
32	フナタツリ薬局・アイン薬局江差店前	77	中やま児童福祉会江差支所
33	江差脳神経外科クリニック	78	江差地方合同庁舎
34	江差眼科薬局	79	江差歴史資料館（対馬館）
35	カタセールえさし	80	家庭・児童裁判所
36	グループホームなごみ・あかり	81	江差町文化会館
37	えさし鍼灸	82	コミュニティプラザえさし・エコー
38	かもめ荘	83	緑丘福祉の家
39	知み香軒	84	在宅型総合福祉施設まるやま
40	岩倉内科医院	85	柳崎ふれあいセンター
41	道南勤労者医療協会江差診療所	86	樽山児童館
42	あさひ薬局江差店	87	まなびっこ
43	在々木病院	88	南が丘ふれあいセンター
44	いにしえ調剤薬局	89	五勝手生活館
45	渡辺鍼灸整骨院	90	柏町母子の家
46	江差整骨院	91	柳川憩い手センター
47	清水歯科医院	92	フェリー乗り場
		93	江差ターミナル

● 乗降地点マップ

3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

江差マースについては、令和6年5月28日改正の江差町地域公共交通計画に記載のあるとおり、令和6年8月から本格運行を開始した。

人口減や自家用車の普及による、バス路線を中心とした減便や廃止が続き、町の一部地域において交通空白地域が発生している状況のなか、高齢者や学生といった交通弱者を中心に、主に通院や買い物時の移動手段として、生活移動を支える役割を担っている。

また、近隣市町との広域交通路線と結ぶ区域型の交通路線として、生活交通ネットワークの構築に寄与している。

このことから、江差マースは適切に実施されている。

6) 目標・効果達成状況

1日あたりの延べ利用者数は10.7人/日と、目標値である10.0人/日を達成した。収支率については4.36%と、目標値である5.4%を下回る結果となった。週3日運行から週5日運行に拡大したことで経常費用が増額となった反面、運行日数拡大当初の令和7年4月～6月における利用者の増加が乏しく、運行経費に対する運賃収入の割合が減少したことが原因の1つであると推測される。

目標値の達成に向け、引き続き利用拡大に向けた取り組みを実施していく。

7) 事業の今後の改善点

江差マースは、過去3か年における4度の実証実験の結果から、より利便性の高く、かつ持続可能性の高い運行体制の構築を目指してきたところ。

住民に対する江差マースの認知度は、徐々に向上してきており、定期的に利用されている方にとっては生活の一部として欠かせないものとして定着している一方、移動手段を必要とされていても、江差マースのことを知らないという方も一定数いることから、利用者の声を広く発信するなどの継続的な周知活動の実施や、手法の見直しが求められる。

また、より多くの人に利用してもらうことができるよう、利便性向上にむけた運行方針等の見直しが必要になる。

8) 地方運輸局等における二次評価結果(案)

運輸局記載欄